



年頭のご挨拶

内閣府沖縄総合事務局長
小八木 大成



令和8年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年我が国を振り返りますと、一昨年からのコメ不足や物価高の問題などが引き続き中、10月には憲政史上初となる女性総理が誕生したことは、記憶に新しいところであり、新しい時代の到来を感じる出来事でありました。

沖縄では、返還されたキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地において、今後の基地跡地利用のモデルケースとなる沖縄健康医療拠点の整備が進められ、琉球大学病院が開院し、同大学医学部が開学しました。ほかにも、コロナ禍を乗り越え沖縄の観光が好調に推移している状況の中、北部地域における新たなテーマパークの開業もあり、素通り観光の改善、北部での滞在時間増、宿泊や飲食などの地元関連産業への波及効果、北部周遊需要が高まることが期待されているところです。これらを始めとした官民の様々な取組が実を結び、沖縄がなお一層の発展を続けていくことを期待しております。

令和元年10月に焼失した首里城については、現在、本年秋の完成を目指して復元整備を進めているところです。昨年7月には外壁等の塗装が完了したことに伴い、これまで正殿を覆っていた「素屋根」が解体され、約6年ぶりに首里城正殿が姿を現しました。往時の輝きを取り戻した首里城正殿の姿を是非ご確認いただきたいと思ひます。また、復元整備に当たっては来園者の皆様に満足していただくため、「見せる復興」をテーマとして取り組んでおります。正殿復元整備を行っている「今」しか見ることのできない、日々変わりゆく正殿の姿をご覧いただきたいと思ひます。

沖縄は、亜熱帯地域に属し一年を通じ温暖な気候である自然的事情や、広大な海域に囲まれアジアの玄関口に位置する地理的事情のほか、全国一高い出生率や全国よりも高い開業率など、他県にはない優位性、潜在力を有しています。沖縄総合事務局としましては、沖縄のポテンシャルが十分に発揮され「強い沖縄経済」が実現するよう、本年も職員一丸となり全力で職務に取り組んでまいります。引き続き県民の皆様のご支援をお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、幸多き一年となりますよう心から祈念し、私の年頭の挨拶とさせていただきます。